

## 令和3年度における大学図書館の活動概要

### 1 館内環境の整備

令和3年度の館内環境整備は、中央図書館において館内書架サインの整備（地下1階西エリア）、網戸の設置（2階及び3階）、サーキュレーターを設置（2階及び3階）、日進図書館において網戸の設置（1階）、サーキュレーターを設置（1階）を行った。

中央図書館は、1階の天井耐震改修を行った。（この工事のため、中央図書館は、令和4年2月及び3月は臨時休館とした。）

### 2 利用者サービスの推進

4月1日からは、前年度の一部利用制限を緩和することで利用者サービスを提供した。ただし、新型コロナ・ウイルス感染が拡大した時期（5月17日から6月28日までの期間、8月27日から10月18日までの期間）には、開館時間の制限、学外者の利用を制限することがあった。

新型コロナ感染防止対策としても有効な自動貸出装置を中央図書館1階に1台設置し、令和3年11月から運用を開始したことで、利用者自身で貸出手続きをすることができるようになった。

### 3 書架狭隘化対策の推進

書架の間引きのため、相山女学園大学図書館資料収集規準第6条（不要資料の決定）に該当する図書として、中央図書館（和書=2407冊、洋書=47冊）、日進図書館（和書=14冊、洋書=1冊）を廃棄した。その他に、返還研究費図書として、中央図書館（和書=505冊、洋書=19冊、視聴覚資料=95点）、日進図書館（和書=224冊、洋書=250冊、視聴覚資料=113点）を廃棄した。

電子書籍の購入は、書架狭隘化対策の有効な方法であるが、和書のプラットフォームとして令和2年度までにMaruzen Ebook Library及びKinoDenの利用環境が整備されており、令和3年度には洋書の電子書籍のプラットフォームとしてProQuest Ebook Centralの利用環境を整備した。

令和3年度の電子書籍の受入点数は、（和書=325、洋書=7）となっている。

### 4 学生ライブラリー・サポーター活動の活性化

年度当初には、学生ライブラリー・サポーター参加者の募集を行い、11名の学生が参加してくれることとなった。新型コロナ・ウイルス感染症に係る社会状況のため対面で集まって活動する場を設けることができなかったが、来館しなくても可能な活動（ポスター作成、ポップ作成、書店での学生選書、オンライン行事への参加）を行った。

### 5 学術機関リポジトリの運用

令和3年度からは、本学で刊行される紀要は、全て電子化することとなった。これに伴い、リポジトリ登録される論文数が大幅に増えることとなった。

相山女学園大学学術機関リポジトリ（教育研究成果をインターネット上で無償に公開するシステム）の登録状況（令和4年3月31日現在）は、学術論文（890件）、紀要論文（839件）、学位論文（5件）、研究報告書（26件）、実践報告書（13件）、教育資料（78件）、学協会誌（8件）、図書（1件）、その他（27件）で計1887件（前年比で482件増）となっている。

利用状況（令和3年4月1日～令和4年3月31日）は、アクセス数（48343件）、ダウンロード数（217086件）

となっている。

## 6 地域社会との連携の推進

### (ア) 一般女性及び女子高校生等への図書館開放

一般女性への図書館開放については、新型コロナ感染拡大状況により学外者の利用制限となった時期があった。5月に準備した女子高校生の来館利用に係る広報は、新型コロナ感染拡大状況もあり進めることができなかった。

### (イ) 名古屋市図書館及び日進市図書館との連携

本学は、名古屋市図書館及び日進市立図書館との連携協定に基づく相互利用を行っている。資料貸借は、名古屋市図書館及び日進市図書館への依頼件数 88 件（前年度依頼 12 件）、名古屋市図書館及び日進市図書館からの受付件数 12 件（前年度受付 17 件）であった。

## 7 ラーニングコモンズの利用促進

ラーニングコモンズは、アクティブ・ラーニング・スペース（複数の学生が集まり、様々な情報資源を活用しつつ議論を進めていく学習スタイルを可能にするスペース）として利用を制限し、新型コロナ・ウイルス感染拡大防止のため前年末から引き続き閲覧席としての利用に限定した。

アクティブ・ラーニング・スペース（複数の学生が集まり、様々な情報資源を活用しつつ議論を進めていく学習スタイルを可能にするスペース）となるラーニングコモンズは、前期において利用を制限した。後期からは、一部利用制限を緩和し「図書館利用ガイダンス」のスペースとして活用した。

## 8. 図書資料の収集・整備状況

本学図書館所蔵資料は、令和3年度の資料受入の結果、図書 460,689 冊（内数＝電子書籍 864 冊）、学術雑誌 2,566 種、視聴覚資料 20,548 点となった。令和4年3月31日現在の主な指標は、次のとおり。

### (1) 図書（所蔵総冊数）

区分	和書	洋書	計
中央図書館	294,951	80,788	375,739
日進図書館	68,154	16,796	84,950
計	363,105	97,584	460,689

### (2) 学術雑誌（累積所蔵種数）

区分	和雑誌	洋雑誌	計
中央図書館	1,528	692	2,220
日進図書館	188	158	346
計	1,716	850	2,566

### (3) 年間図書資料受入数（製本雑誌、寄贈図書、移管受入図書を含み、廃棄資料は含まない。）

区分	和書	洋書	計
中央図書館	4,066	238	4,304
日進図書館	610	54	664
計	4,676	292	4,968

## (4) 内数 (年間電子書籍受入数)

区 分	和 書	洋 書	計
中央図書館	325	7	332
日進図書館	0	0	0
計	325	7	332

## (5) 視聴覚資料

区 分	令和3年度受入点数	累積所蔵点数
中央図書館	140	17,981
日進図書館	21	2,567
計	161	20,548

## 9. 利用者サービス状況

区分			中央図書館		日進図書館	
			令和03年度	令和02年度	令和03年度	令和02年度
開館日数			228	207	269	196
入館者数			38,017	6,628	13,056	3,345
貸出冊数			18,177	7,043	5,740	1,520
相互協力	文献複写	依頼件数	700	469	81	69
		受付件数	410	425	66	54
	閲覧	依頼件数	0	0	1	0
		受付件数	11	0	1	0
	相互貸借	借用	356	41	12	3
		貸出	23	27	1	4